

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2021.5.17-23**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

18:1 さて、モーセのしゅうと、ミデヤンの祭司イテロは、神がモーセと御民イスラエルのためになされたすべてのこと、すなわち、どのようにして主がイスラエルをエジプトから連れ出されたかを聞いた。

18:2 それでモーセのしゅうとイテロは、先に送り返されていたモーセの妻チツポラと

18:3 そのふたりの息子を連れて行った。そのひとりの名はゲルシヨムであった。それは「私は外国にいる寄留者だ。」という意味である。

18:4 もうひとりの名はエリエゼル。それは「私の父の神は私の助けであり、パロの剣から私を救われた。」という意味である。

18:5 モーセのしゅうとイテロは、モーセの息子と妻と一っしょに、荒野のモーセのところに行った。彼はそこの神の山に宿営していた。

18:6 イテロはモーセに伝えた。「あなたのしゅうとである私イテロは、あなたの妻とそのふたりの息子と一っしょに、あなたのところに来ています。」

18:7 モーセは、しゅうとを迎えに出て行き、身をかがめ、彼に口づけした。彼らは互いに安否を問い、天幕にはいった。

18:8 モーセはしゅうとに、主がイスラエルのために、パロとエジプトとになされたすべてのこと、途中で彼らに降りかかったすべての困難、また主が彼らを救い出された次第を語った。

18:9 イテロは、主がイスラエルのためにしてくださいましたすべての良いこと、エジプトの手から救い出してくださったことを喜んだ。

18:10 イテロは言った。「主はほむべきかな。



主はあなたがたをエジプトの手と、パロの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。

18:11 今こそ私は主があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。実に彼らがこの民に対して不遜であったということにおいても。」

18:12 モーセのしゅうとイテロは、全焼のいけにえと神へのいけにえを持って来たので、アロンは、モーセのしゅうととともに神の前で食事をするために、イスラエルのすべての長老たちといっしょにやって来た。

出合いは私たちの喜びです。長く交わりができなかったイテロに対して、モーセは忙しい中にも礼を尽くして迎えました。そして主のすばらしさを伝えたのです。神様があなたに与えてくださった恵みを分かち合っているでしょうか。そのことが話題になっているでしょうか？

モーセのように神様の働きで忙しい人は、案外家族をおろそかにしがちかもしれません。家族への救いこそが、何よりも大切です。最も身近な人にはごまかしがききません。自分の本当の姿が問われます。あなたはいかがでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶18日 火曜

### 出エジプト

18:13 翌日、モーセは民をさばくためにさばきの座に着いた。民は朝から夕方まで、モーセのところに立っていた。

18:14 モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。「あなたが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜあなたひとりだけがさばきの座に着き、民はみな朝から夕方まであなたのところに立っているのですか。」

18:15 モーセはしゅうとに答えた。「民は、神のみこころを求めて、私のところに来るのです。」

18:16 彼らに何か事件があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神のおきてとおしえを知らせるのです。」

18:17 するとモーセのしゅうとは言った。「あなたのしていることは良くありません。」

18:18 あなたも、あなたといっしょにいるこの民も、きっと疲れ果ててしまいます。このことはあなたには重すぎますから、あなたはひとりですることはできません。

18:19 さあ、私の言うことを聞いてください。私はあなたに助言をしましょう。どうか神があなたとともにおられるように。あなたは民に代わって神の前において、事件を神のところに持って行きなさい。

18:20 あなたは彼らにおきてとおしえとを与えて、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを彼らに知らせなさい。

18:21 あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人々、不正の利を憎む誠実な人々を見つけ出し、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民の上に立て

なければなりません。

18:22 いつもは彼らが民をさばくのです。大きい事件はすべてあなたのところに持って来、小さい事件はみな、彼らがさばかなければなりません。あなたの重荷を軽くしなさい。彼らはあなたとともに重荷をになるのです。

18:23 もしあなたがこのことを行なえば、**・ ・ 神があなたに命じられるのですが、  
・ ・ あなたはもちこたえることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができます。」**

18:24 モーセはしゅうとの言うことを聞き入れ、すべて言われたとおりにした。

18:25 モーセは、イスラエル全体の中から力のある人々を選び、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民のかしらに任じた。

18:26 いつもは彼らが民をさばき、むずかしい事件はモーセのところに持って来たが、小さい事件は、みな彼ら自身でさばいた。

18:27 それから、モーセはしゅうとを見送った。彼は自分の国へ帰って行った。

神様は共同体を通して、様々な人のために様々なことを行おうとしておられます。それは互いに働きを分け合わなければ、できないことです。モーセはそれを1人で抱え込んでいましたし、民はモーセに全て負わせていました。

私たちは抱え込まずに、他の人にも委ねることが必要です。また、ここにあるような小さなグループで解決してゆくことも必要なのです。あなたのセルグループはそのような価値観と責任感があるでしょうか。まずは自分自身からよき模範となってゆきましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:1 エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月のその日に、シナイの荒野にはいった。

19:2 彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野にはいり、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。

19:3 モーセは神のみもとに上って行った。主は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。

19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたをわしの翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。

19:5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

19:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

19:7 モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、主が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。

19:8 すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは主が仰せられたことを、みな行ないます。」それでモーセは民のことばを主に持って帰った。

19:9 すると、主はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたがたを信じるためである。」それからモーセは民のことばを主に告げた。

19:10 主はモーセに仰せられた。「あなたは民のところにいき、きょうとあす、彼らを聖別し、自分たちの着物を洗わせよ。

19:11 彼らは三日目のために用意をせよ。三日目には、主が民全体の目の前で、シナイ山に降りて来られるからである。

19:12 あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

19:13 それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは山に登って来なければならない。」

19:14 それでモーセは山から民のところに降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。

19:15 モーセは民に言った。「三日目のために用意をしなさい。女に近づいてはならない。」

荒野のような人生を歩むには、神の民となって、神の主権によって守られていく必要があります。神の民となるために何よりも大切な条件は、みことばを守ることです。ですから主は「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。」と語られたのです。

あなた自身は、主は絶対の権威を持ったお方であるということを認めているでしょうか。またそのみことばによって守られているでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:16 三日目の朝になると、山の上に雷といわずまと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。

19:17 モーセは民を、神を迎えるために、宿営から連れ出した。彼らは山のみもとに立った。

19:18 シナイ山は全山が煙っていた。それは主が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山が激しく震えた。

19:19 角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。

19:20 主がシナイ山の頂に降りて来られ、主がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。

19:21 主はモーセに仰せられた。「下って行って、民を戒めよ。主を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけない。

19:22 主に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。主が彼らに怒りを発しないために。」

19:23 モーセは主に申し上げた。「民はシナイ山に登ることはできません。あなたが私たちを戒められて、『山の回りに境を設け、それを聖なる地とせよ。』と仰せられたからです。」

19:24 主は彼に仰せられた。「降りて行け。そしてあなたはアロンといっしょに登れ。祭司たちと民とは、主のところに登ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発

せられないために。」

19:25 そこでモーセは民のところに降りて行き、彼らに告げた。

神様の権威は私たちの心の中だけのものではありません。全地を揺るがすほどのもの、すなわち全世界を変えるほどのものです。この主の前に私たちはひれ伏すしかないものです。

主を、または主のみことばを自分の都合や主張に合わせて、いいように用いたりすることは有り得ないことです。十字架の主の赦しを求めつつ、自分を見つめ直しましょう。

「民はみな震え上がった。」とあります。私たちも震え上がるほどの神体験をしたいものです。それには、私たち自身がまず主の前にひれ伏して、その主権を認めることです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 金曜

### 出エジプト



20:1 それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。  
20:2 「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。  
20:3 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。  
20:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。  
20:5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、  
20:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。  
20:7 あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。  
20:8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。  
20:9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。  
20:10 しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。・ ・ ・あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も。・ ・ ・  
20:11 それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言

された。

20:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。  
20:13 殺してはならない。  
20:14 姦淫してはならない。  
20:15 盗んではならない。  
20:16 あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。  
20:17 あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

十戒と呼ばれるもので、クリスチャンのあるべき姿の基本となるものです。この命令に反しているなら、神様の御心に反しているのです。しかし、主はまずご自身を「エジプトから連れ出した」と、その救いを強調なさいます。

私たちが従うべき主とは、あの十字架で苦しみ死んで救ってくださったお方なのです。愛の中でこの十戒にしたがいましょう。そうするとき、主は私たちに働いてくださり、この十戒にある以上の者としてくださいます。すなわちイエス様が心の罪をも問題になされたように、私たちは内面までも聖なるものとなれるのです。

それは人間の力では無理なので、聖霊によるものです。主により頼んできよい者とさせていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20:18 民はみな、雷と、いなずま、角笛の音と、煙る山を目撃した。民は見て、たじろぎ、遠く離れて立った。

20:19 彼らはモーセに言った。「どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従いません。しかし、神が私たちにお話しにならないように。私たちが死ぬといけませんから。」

20:20 それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです。」

20:21 そこで、民は遠く離れて立ち、モーセは神のおられる暗やみに近づいて行った。

20:22 主はモーセに仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう言わなければならない。あなたがた自身、わたしが天からあなたがたと話したのを見た。

20:23 あなたがたはわたしと並べて、銀の神々を造ってはならない。また、あなたがた自身のために金の神々も造ってはならない。

20:24 わたしのために土の祭壇を造り、その上で、羊と牛をあなたの全焼のいけにえとし、和解のいけにえとしてささげなければならない。わたしの名を覚えさせるすべての所で、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福しよう。

20:25 あなたが石の祭壇をわたしのために造るなら、切り石でそれを築いてはならない。あなたが石に、のみを当てるなら、それを汚すことになる。

20:26 あなたは階段で、わたしの祭壇に上ってはならない。あなたの裸が、その上にあらわれてはならないからである。

イスラエルの民は恐怖に打たれました。これも大切なことで、私たちも神様を恐ろしいと思うことが必要です。しかし、それで終わるのではなく、その恐れ多いお方が、自分のために犠牲になるほどに愛してくださったと知ることがもっと重要です。しかし、この神を恐れることを知らないと、本当の愛が分からないのです。

その神を最も恐れているこのときに、偶像の禁止が語られました。それほど偶像は問題なのだと思える必要があります。偶像は私たちを神から引き離してしまうものだからです。

心の中に神以外のものを、神の代わりにしていいのでしょうか。神以外のものに頼ったり、従ったりしていいのでしょうか。心の偶像を取り除きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:1 あなたが彼らの前に立てる定めは次のとおりである。

21:2 あなたがヘブル人の奴隷を買う場合、彼は六年間、仕え、七年目には自由の身として無償で去ることができる。

21:3 もし彼が独身で来たのなら、独身で去り、もし彼に妻があれば、その妻は彼とともに去ることができる。

21:4 もし彼の主人が彼に妻を与えて、妻が彼に男の子、または女の子を産んだのなら、この妻とその子どもたちは、その主人のものとなり、彼は独身で去らなければならない。

21:5 しかし、もし、その奴隷が、『私は、私の主人と、私の妻と、私の子どもたちを愛しています。自由の身となって去りたくありません。』と、はっきり言うなら、

21:6 その主人は、彼を神のもとに連れて行き、戸または戸口の柱のところに連れて行き、彼の耳をきりで刺し通さなければならない。彼はいつまでも主人に仕えることができる。

21:7 人が自分の娘を女奴隷として売するような場合、彼女は男奴隷が去る場合のように去ることはできない。

21:8 彼女がもし、彼女を自分のものにしようとした主人の気に入らなくなったときは、彼は彼女が贖い出されるようにしなければならない。彼は彼女を裏切ったのであるから、外国の民に売る権利はない。

21:9 もし、彼が彼女を自分の息子のものとするなら、彼女を娘に関する定めによって、取り扱わなければならない。

21:10 もし彼が他の女をめとるなら、先の女への食べ物、着物、夫婦の務めを減らしては

ならない。

21:11 もし彼がこれら三つのことを彼女に行なわないなら、彼女は金を払わないで無償で去ることができる。

神様の定めについて、その内容が始まってゆきます。その始めに奴隷という、最も弱い立場の人のために規定があることは、意味のあることです。神様はそのように弱い人をいつくしんでくださるかたです。

ここでは、主人の下を去ることができるのに、「去りたくありません。」と、主人を慕う奴隷について書かれています。これはまさに私たちの姿です。すなわち奴隷であったとしても、主イエスのもとを去りたくなどないという、私たちの信仰なのです。

耳を刺し通すというのはピアスでも空けるようですが、これは象徴であって、主イエスのことばを聞く者となることを表しています。主イエスの奴隷であることを誇りとしましょう。そのように仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

